

白 神 通 信



白神山地のアカショウビン (2016年7月 八峰町にて 撮影：盛一樹)

[contents]

- ◆ 藤里学園総合学習「地域探訪 森林の保全」・・・・・・・・・・ P2
- ◆ 令和6年度第1回白神山地世界遺産地域巡視員会議（秋田県側）・・・・ P3
- ◆ 能代高校二ツ井キャンパス校生の植林体験・・・・・・・・・・ P4
- ◆ 特定外来生物 オオハンゴンソウ駆除・・・・・・・・・・ P5
- ◆ 岳岱自然観察教育林へのアクセス道解放に向けて・・・・・・・・ P6

藤里森林生態系保全センター 令和6年9月20日 No.110

藤里学園総合学習「地域探訪 森林の保全」

令和6年5月8日、藤里学園7年生15名が、総合学習「地域探訪 森林の保全」のため、当センターを訪れました。

座学として当センター所長による、パワーポイントを用いた「白神山地とは」、「何が素晴らしいのか」「白神山地を保全するために誰が何をを行っているのか」などを講義しました。

生徒たちは地元の白神山地に関心を寄せながら、熱心にメモを取り学習していました。



白神山地の素晴らしさと保全を講義



熱心にメモを取りながら学習

座学の後には、童心に帰って木育です。藤里学園7年生ということで、木育の定番「もっくん」ではなく、実用的な「木製ネームプレート」を製作しました。

生徒それぞれ創意工夫しながら、オリジナリティあふれる作品に仕上げていました。



好きな形を選んで



創意工夫しながら作成



見せあいながら作りました

令和6年度第1回白神山地世界遺産地域 巡視員会議(秋田県側)

令和6年6月4日、八峰町文化交流センター「ファガス」を会場に、令和6年度第1回白神山地世界遺産地域巡視員会議(秋田県側)が開催され、巡視員18名、白神山地世界遺産地域連絡会議構成機関から19名が参加しました。

まずは、新規巡視員の柴田仁さんへ委嘱状の交付があり、柴田仁さんの紹介と、本人から巡視員としての抱負などをお話しいただきました。

その後の議事では、連絡会議構成機関ごとの令和6年度の白神山地に関わる主な事業計画について、環境省東北地方環境事務所、秋田県自然保護課、藤里町、八峰町、能代市、東北森林管理局から説明がありました。

意見交換会では、巡視日誌の記載方法、希少種の目撃情報の報告、巡視員腕章の着用など、巡視活動に関する意見や、ドローンの飛行を目的とした入山者情報などの意見が出されたところです。

今後とも、巡視員や関係機関の情報共有・連絡調整を密にしながら、白神山地の保全管理を進めてまいりたいと考えています。



計画保全部長から巡視員委嘱状の交付



巡視員会議の様子



新規巡視員の柴田仁さん

能代高校二ツ井キャンパス校生の植林体験

令和6年6月14日、藤里町粕毛地内の民有林において、NPO法人あきた白神の森倶楽部による白神プロジェクト(目的:白神山地を教材とした白神学習を通して、世界自然遺産「白神山地」の魅力を伝えることのできる生徒を育成する)の一環として、植林体験が行われました。

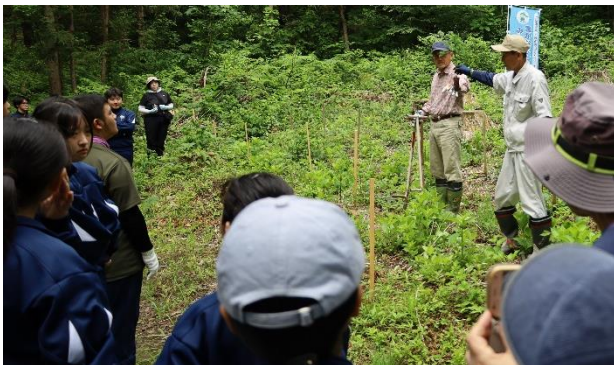
能代高校二ツ井キャンパス校の生徒1年生34名、3年生13名が参加し、当センターは植樹指導のため参加しました。

まずは、NPO法人あきた白神の森倶楽部に集合し、事務局の武田さんほかから、白神山地はブナだけではなく、スギも含めた多種多様な木や植物により森林生態系が形成されていることなどの説明がありました。

その後植林場所に移動し、秋田県林業研究研修センターの澤田さん、有限会社田村山林緑化農園の田村さんから、スギコンテナ苗の特性やディブル(地面に苗木の植穴をあける道具)を用いた植林方法の説明がありました。

今年の植林場所は地面が堅い場所が多く、生徒たちはディブルで植穴を開けるのに苦労していましたが、パワフルな男子が植穴を開け女子が植えるなど、チームワークを発揮しながら150本のスギコンテナ苗を植林しました。

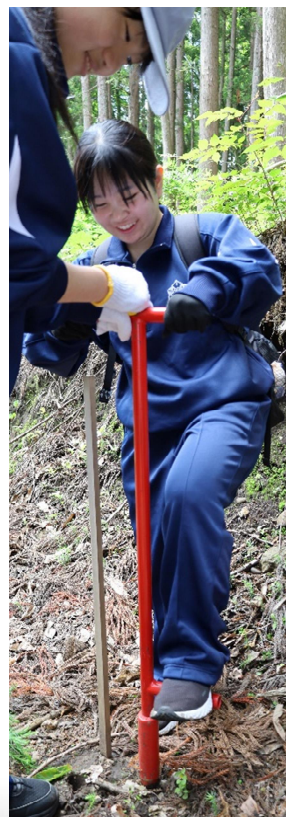
白神プロジェクトでは植林のほか、自然林散策やフォトコンテストなど幅広い活動をされているとのことで、白神山地の魅力を広く伝えることができる生徒に育つことを期待しています。



スギコンテナ苗の特性と植え方の説明



丁寧に植えています



地面が硬くて大変



パワフルな男子の植穴開け

特定外来生物 オオハンゴンソウ駆除

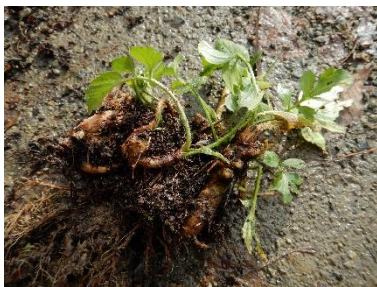
令和6年8月24日、白神山地周辺の粕毛林道沿線において、白神山地世界遺産巡視員9名、東北地方環境事務所から3名、東北森林管理局から9名が参加し、繁殖力が強く在来の植物の生育を妨げ、地域の生物多様性が失われる恐れがある、特定外来生物に指定されているオオハンゴンソウの駆除作業を行いました。

巡視員や白神山地関係機関が協働で実施しているこの作業は、今年で3年目になりますが、オオハンゴンソウは多年草で、地中に根だけ存在していたなど発見できなかった個体があることや、新たな種子がヒトや動物により意図せずとも運び込まれることがあり、なかなか完全駆除には至っていません。

「駆除作業の時に発見できなかった」ことを少しでも減らすため、今年は作業開始の前に、新芽から複数年掛けて成長するに伴い葉の形状が大きく変化するオオハンゴンソウのそれぞれの成長過程を写した参考写真を用意し、勉強会を開催し、駆除を行いました。

残暑厳しい中、日陰のない場所での駆除作業を終えた参加者からは、「オオハンゴンソウの葉がここまで形状変化するとは知らなかった。良い勉強になった。」との意見もありました。

粕毛林道沿線にオオハンゴンソウが生息していると、いつか遺産地域に侵入してしまう恐れがあり、今後ともオオハンゴンソウの駆除作業を継続してまいります。



地中の根株から
再生した新芽



新芽



成熟した開花個体

【参考】新芽から複数年掛けて成長するに伴い葉の形状が大きく変化するオオハンゴンソウ

岳岱自然観察教育林へのアクセス道解放に向けて

令和6年8月29日、岳岱自然観察教育林(以下、「岳岱」)及び周辺において、秋田白神ガイド協会と協働しながら、遊歩道等の整備を行いました。岳岱にアクセスする県道西目屋二ツ井線は、法面改良工事のため令和6～7年度は通行止めとなっていますが、紅葉シーズンである10月は解放することから、これに向けた準備作業を行いました。

令和5年春に新規歩道を整備し、冬越しのため回収していたシンボルツリー「岳岱大ブナ」周辺の侵入防止ロープを張り直し、雪圧により損傷した遊歩道杭及び誘導板を修復し、多目的展示施設の冬囲い解放なども行いました。

倒伏した400年ブナの神々しさ、シンボルツリーである「岳岱大ブナ」「こまいぬシナノキ」の威風堂々とした姿も健在です。様々な表情を見せるブナ林の黄葉が楽しみです。アクセス道解放の際は、ぜひ岳岱へお越しください。岳岱より山奥にある田苗代湿原や藤里駒ヶ岳の紅葉も楽しめます。



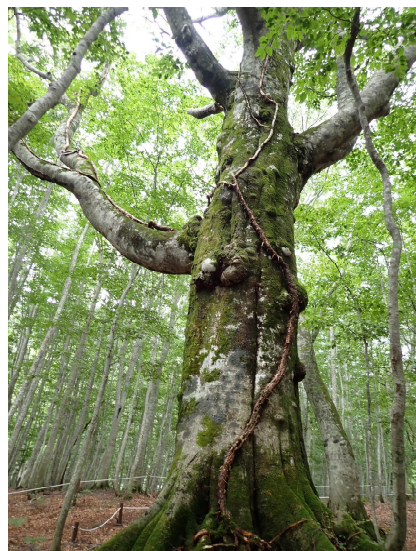
杭の打ち直し



ロープの張り直し



遊歩道再生しました



岳岱大ブナ



こまいぬシナノキ



400年ブナ



(発行) 林野庁 東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター

TEL: 0185-79-1003

「白神通信」QRコードはコチラ

<https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/huzisato/>



東北森林管理局広報
「みどりの東北」
QRコードはコチラ →



藤里森林生態系保全センター
ホームページ QRコードはコチラ →

